

# 日経産業新聞

発行所 日本経済新聞社  
 東京本社 〒100-8066 〇(3)3270-0251  
 東京都千代田区大手町1-9-5  
 振替口座 00130-7-555番  
 大阪本社 〒540-8588 〇(6)943-7111  
 大阪市中央区大手前1-1-1  
 振替口座 00920-1-73217番  
 名古屋支社 〒460-8366 〇(52)322-2561  
 名古屋市中区正木2-3-1  
 振替口座 00830-6-6149番  
 西部支社 〒812-8686 〇(92)473-3300  
 福岡市博多区博多駅東2-16-1  
 振替口座 01710-1-1248番  
 札幌支社 〒060-8621 〇(11)281-3211  
 札幌市中央区北1条西7-3  
 ©日本経済新聞社 1998

## 第2部 中小生き残りの条件

②

### 最初は氷で製作

平成不況の中で、江戸時代後期のアイデアマン平賀源内の魂が蘇(よみがえ)ろうとしている。一エッジンより百二十年も前に登場した才人の発想を追い求め、中小企業経営者が増えているのだ。そこに生き残りのヒントが隠れている。

「予想以上の出来栄だ。砂と氷の相性が悪く、氷もすぐ解けてしまった。橋本は無理だと思ったが、竹内はあきらめない。「ドライアイスなら解けていく」。再挑戦の結果、砂との相性も解決する。竹内は早速年末に特許を出願した。

東京・品川に本社を置く新興セルビックは従業員約二十人の典型的な中小企業だが、自社開発した超小型の樹脂射出機「ベベル」は、人に会う度メモを取るなどの努力を続けるうち、

# 強くなれ 製造業

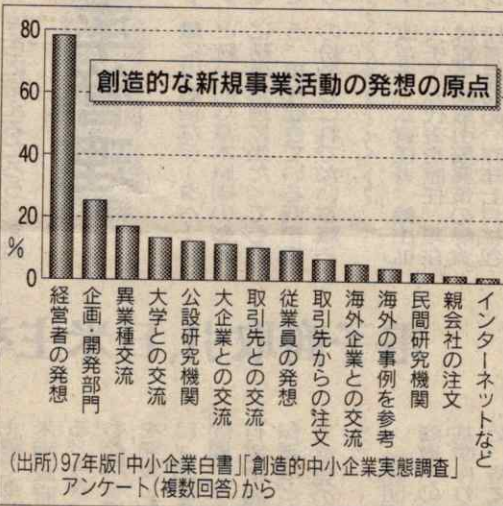
▶17◀

出して製作する。それをドライアイスを加して鑄型をつくってしまった。昨年十月、東京・大田区にある橋本鑄造所でこんな歓声が上がった。共同実験の成果を見に来た精密金型メーカー、新興セルビック社長竹内宏は、できあがった鑄物の型を見つめて満面に笑みを浮かべた。自動車部品などの量産に不可欠な鑄型は通常、金属や木材の原型を鑄物砂に埋め込み、砂を固めてから原型を取り

「なぜ」を大切に 十年ほど前までは円高に

## めざせ「平成の平賀源内」

# ドライアイスで鑄型



工作機械でドライアイスを加工し鑄型の原型に。ドライの精神と好奇心のなせる技(新興セルビックの工場内)

「我々は一

示している。

人では源内にはなれない」と白覚する竹内がアイディアに磨きをかけているのが、アイディア工房と呼ぶ開発者のネットワークや異業種交流。「気心の知れた仲間とアイディアを持ち寄り、ぶつければ環境が発想の実現や発展の支えだ」とい。

「なぜだろう」という問題追求型の発想法が身につく。開発が軌道に乗る。ベベルの開発もそう。日本ですべて物産展を始めた。鉱山知識や物理、劇作までの多才ぶり、土用の丑の日の「キャッチフレーズは今も残る。オランダの書物で電気について学んだ。源内の名声と限界は、中小企業が創造性を発揮して生き残る可能性と押さえるべき課題の両面を